



橋梁通信

小面積の腐食劣化 1日で補修完了

工期・費用大幅減 新防食技術を普及へ 首都高など

首都高速道路会社東京都千代田区、宮田年耕社長など3社は、鋼橋の桁端部など小面積の腐食劣化の補修工事を1日で完了させる新しい防食技術を開発した。この技術は、高速道路橋上の標識柱ポルト添接部の補修にも適用でき、従来工法と比べて施工日数と費用を大幅に減らせることを確認した。メンテナンス時代に大きな役割を果たす。【関連記事5面】



腐食の状況(写真はいずれも首都高速道路会社提供)



ブラッシュブル・エスの下塗り作業

3社は、発注者としてフィールド提供や規格化に当たった首都高速と、材料選定や設計・試験施工を担当した建設コンサルタント・日本エンジニアリング(横浜市、堀内博社長、補修材などの

はく離剤を塗布後の洗浄液 非危険物材料を推奨、徹底へ

C-WRA

水系塗膜剥離剤工法等研究会(C-WRA)会長清水知幸・ソーラー社長は1月29日、東京で会議を開き、はく離剤を塗布した後の洗浄液(クリーナー)に非危険物の材料使用を推奨、徹底することを決めた。一般的に塗替え塗装工事の現場では、鋼橋の旧塗膜を除去するためにははく離剤を塗布、手工具でか

き落とした後に、湿潤化した旧塗膜やはく離剤が残留することが多い。その処理作業の安全性には、不透明な部分が残されてきた。同研究会事務局は「はく離剤の種類によつては、専用クリーナーなどによる拭き取り作業を必須としている製品もあり、その材料の火災安全性を確認する必要がある」と指摘している。会員のはく離剤メーカーの一部は、すでに非危険物の専用クリーナーを商品化・販売しており、体制を整っていないメーカーに準備を促す形となった。また、研究会として遅くとも3月末までに、試験機関ではく離剤とクリーナーの「小ガス炎着火試験」を行うことも決めた。

静岡市で昨年起きた東名高速の火災後、複数の道路管理者から、塗膜はく離作業時、足場内にガス検知器を導入するよう指示が出始めている。同

「鋼橋CIM」リリース スタンダードへ オフィススケイワン

橋梁に特化したシステム開発 ICTサービスマ提供のオフィススケイワン(大阪市、保田敬一社長)は、国土交通省のCIM導入ガイドライン(案)のモデル詳細度300~400と、3次元モデル表記事業(案)の上部施工3Dモデルに対応可能な「鋼橋CIMシステム」を今年4月に

ラッシュブル・エスを下塗り塗料に使う塗装システム。この塗料は、腐食環境が厳しい船舶の船首防食に使われるパテ状の材料を改良したものだ。作業は、素地調整程度1種相当か、同2種が基本。ごみ、塵状さびなどを除去したうえで、ブラッシュブル・エスを刷毛で3回塗布すれば、膜厚750μmが附着できる。厚膜でも液だれせず塗れ、最短10分で乾燥

への塗装を想定し、供試体を鉛直に立てた状態の施工試験の結果は、施工性と品質に問題がなく、付着強度がしきい値2MPaの4倍以上という強度を示した。同工法では素地調整から上塗りまでが、1日(80%減)で済む。施工費も従来の229万円から42万円(72%減)に削減可能との試算が出た。首都

橋に咲く

山田圭織さん(8面)
アクティオ ICT建機の最前線で

多機能防食デッキ NSカバープレート™

外面仕様: チタン・ステンレス・ガルバリウム塗装鋼板

特徴

- 厳しい自然環境から本体を護る「防食機能」
厳しい環境に対応し、塗装の塗替え不要で、ライフサイクルコストを大幅縮減します。
- 点検・補修がいつでもできる「常設足場機能」
近接目視点検で安全・確実な維持管理を実施します。
- 剥落コンクリートによる第三者被害を防止する「防護機能」
万が一、床版コンクリートが剥落してもパネル内部で受け止めることができます。

日鉄エンジニアリング
建築・鋼構造事業部
https://www.eng.nipponsteel.com/steelstructures